



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 69 号 2018.5.24

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### マンクス・ロフタンを食べました

十和田農場では世界的に希少なマンクス・ロフタンという羊を飼養しています。

日本には純粋種が 50 頭ほどしかおらず、十和田農場には 2010 年に種の保存を目的として導入され、現在は 15 頭ほどのマンクス・ロフタンが十和田農場で飼養管理されています。

マンクス・ロフタンは羊の原種といわれていて、サフォークに比べて二回りほど小さく、とても身軽です。珍しいのは最大 6 本生える角と、自然の風合いが美しい茶色の羊毛です。

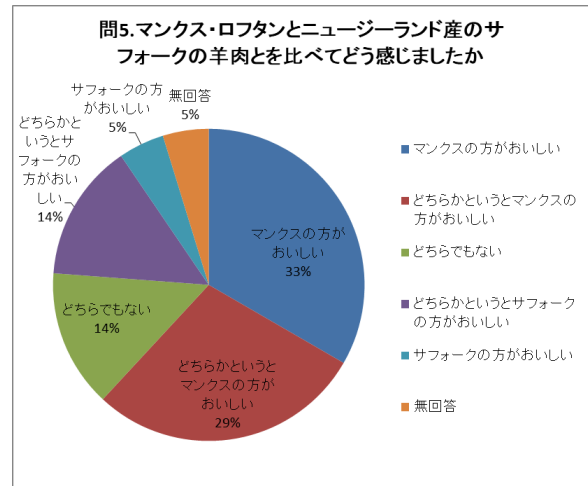
十和田農場では毎年 3 腹程度を分娩させていますが、頑丈に生える角と野性味あふれた性質上、毎年残せるオスには限りがあります。特に大きい角を持ち、けんかも激しいオスは、生まれたほとんどが去勢されます。畜舎にも限りがあるため、今回はこの余剰分を関係者で試食してみようということになりました。

マンクス・ロフタンは成長も遅く肉量も少ない反面、赤身肉は低コレステロールで風味がよいといわれています。しかし、希少種ゆえ食べた事例も多くはありません。今回は、十和田市の羊肉専門店「ラム善」の全面協力のもと、マンクス・ロフタンのラムチョップと部位ごとのカット肉に、比



較用として普段「ラム善」で提供しているオーストラリア産サフォークのラムチョップを出していただきました。農場職員のほか、マンクス・ロフタン導入に関わった方や食品系研究室の先生方、マンクス・ロフタンで繁殖系の研究をされた先生方など、マンクス・ロフタンと多方面で関わりのある 20 名程度の方々をお招きして、簡単な食味アンケートにご協力をお願いし、マンクス・ロフトンの味の感じ方を調査しました。

アンケートの結果によると、マンクス・ロフタンの方がサフォークよりもおいしかったと感じる人が多かったようです。マンクス・ロフタンは少し硬いと感じる人もいましたが、味が濃くとてもおいしかったという回答が多くみられました。大好評で終えることができたため、十和田農場でも第二回目の開催や定期販売の検討をしているところです。



## 八雲牧場から

### 八雲さむいべや祭出店 (2月4日)

第31回八雲さむいべや祭が2月4日に開催されました。

例年より遅れ気味でやってきたインフルエンザにより町内の小学校の学校閉鎖、中学校および高等学校の学級閉鎖も相まって、祭り自体の来場者数は例年よりかなり下回っていました。そのため、販売数は少なめではありましたが、昨年同様実行委員会のご配慮により、会場で行われたビンゴ大会の景品に草熟北里八雲牛加工品の詰め合わせをご利用いただいたことから、来場者にPRすることもでき普及促進につながったことと思います。



## 2月の暴風雪

ここ約20年の間、牧場から4km手前から出勤できないくらいの雪が吹雪によって吹き溜まることは、数年に1回程度ありましたが、日中に降り続き21時まで牧場で待機という日を始めて経験しました。12月、1月はそれほどの量の雪が降らなかったのですが、2月に入ってからは降雪が多く、さらに強風の日が1~2週間続きました。2月1日に140cm程度だった積雪量が3月1日には193cmとなり、牛舎清掃のために一時的に

パドックに牛を出すために、前日に除雪したにもかかわらず、写真のようにまさに雪を漕ぐ状態になりました。昨年が 80 cm と異常に少なかったこともあり今年も職員もすっかり雪に疲れてしまいました。



### 北里八雲牛普及推進協議会が開催される

第 17 回北里八雲牛普及推進協議会定期総会が 3 月 15 日に行われました。

取引先である、マルハニチロ・東都生協・小島商店をはじめ、八雲町内の協力農家で結成されている北里八雲牛生産組合や関係機関などから 20 名以上が参加し、今後の北里大学および町内北里八雲牛の生産と消費について議論されました。

マルハニチロの方からは、有機牛肉の可能性についての話題が提供され、北里八雲牛の今後の生産や販売について参考になりました。

### 3 月 31 日ご退職

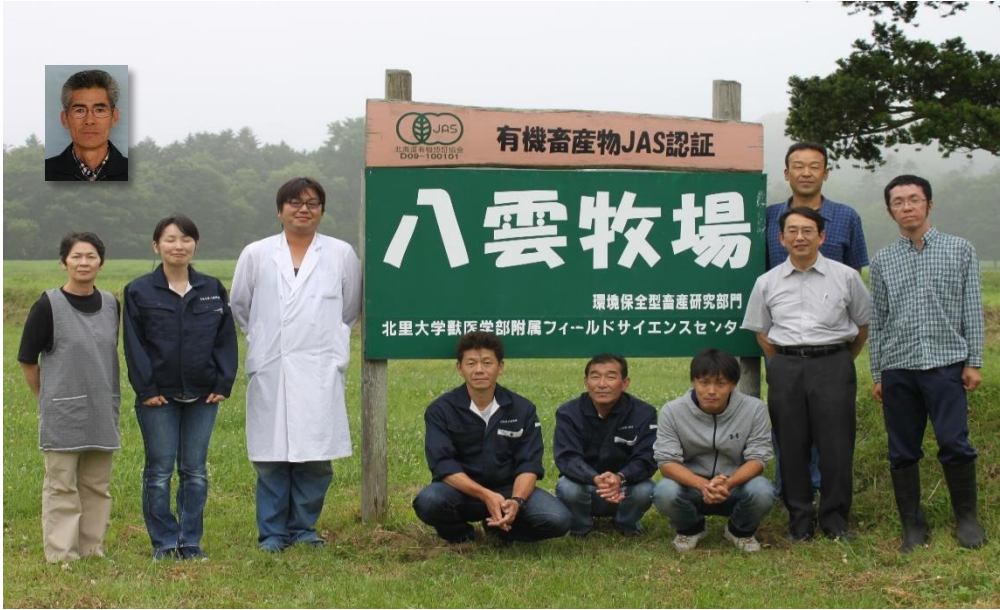
松本英典さん、真智子さん、臨時職員の工藤翔太郎さん、井上晃太さんが、今年度をもってご退職されることとなりました。

松本英典さん、真智さんは 35 年間住み続けた実習所から出られます。英典さんには定年後も 7 年間、真智さんは 2 年間、お二人とも 35 年間という長い年月を八雲牧場そして実習所の管理を支えてきてくださいました。

今まで当たり前のように感じていた存在がなくなると思うとすっかり寂しくなることと思いますが、お二人にお世話になった業務を、残った職員と新たに迎える職員と皆で丸となって頑張っていき、心配させないようにしていきたいと思います。

工藤さんは森岡主任の産休・育休要員として雇用され 1 年 9 か月在籍していただきました。井上さんは正職員募集の間の臨時として 7 か月間在籍していただきました。お二人方も慣れない牧場作業に汗をかきながら頑張っていた姿が印象的でした。

今後は、牧場とは異なる職種のお仕事にそれぞれ就かれることとなりましたが、またお会いできる日を楽しみにしています。



(編集担当：畔柳 正)